

クライアント紹介

ARM (アーム) : Armがグローバルテクノロジーの未来を築き AQXがArmのイノベーションを守る

世界をリードする半導体知財企業Arm (アーム) は、世界中のすべての人々に影響を与える技術を有する企業です。グローバルなテクノロジーイノベーターのエコシステムによって、コンピューティングの未来を定義し、世界有数の企業や消費者ブランドを支援しています。「The future is built on Arm (Armで未来を築く)」と同社が掲げる中、Armの未来はそのイノベーションとテクノロジーの保護の上に築かれます。

知財業務や管理における高効率性実現のためにArmを支援するのが、アナクアの企業向け知財総合管理プラットフォームAQX®です。イギリスのケンブリッジにあるArmグローバル本社に籍を置く、Senior Director and Head of Intellectual Property Prosecution (シニアディレクター兼知的財産中間処理部門責任者) である Daryl Bradley (ダリル・ブラッドリー) 氏に、イノベーションと知財管理に対する同社のアプローチ、そしてArmがAQXをどのように利用してさらなるゴールの達成を目指しているかについて話を聞きました。

Armはどのような業界に影響力を持ちますか。 また、イノベーションや知財はArmの顧客を支 援する上でどのような役割を果たしていますか。

DB (ダリル・ブラッドリー氏) : Armはあらゆる人の生活に影響を及ぼす企業の1つですが、Armの名前を聞いたことがない人もいるでしょう。Armの技術は世界中のあらゆる産業を支えています。たとえば、Armはスマートフォン革命を可能にしました。現在は、クラウドコンピューティングで何ができるかを再定義し、自動車産業を変革し、IoT経済を促進し、メタバースを実現しようとしています。イノベーションは私たちの生命線であり、世界中のパートナーの生命線でもあります。そしてそのイノベーションを守ることは極めて重要です。

Armはテクノロジーライセンス企業であり、数千人のエンジニアがマイクロプロセッサと関連テクノロジーを設計し、それらの設計のライセンスを提供しています。Armの顧客は、ライセンスされた設計を自社の付加価値とともに自社製品に組み込み、製造しています。

その数は驚異的です。今では、最小サイズのマイクロコントローラから大規模なサーバファームに至るまであらゆる業界やテクノロジーにおいて、年間何十億もの製品が私たちの設計を取り入れ製造されています。

すべてがよりスマートで多機能でなければならない現代において、私たちは常にイノベーションを生み出しています。それは、顧客がArmの製品を使うことで最高の製品を作るためであり、Armが将来のニーズを先取りできるようにするためです。



私たちにとって、知財は2つの点で重要です。まず、Armは主に物理的な製品を出荷しているのではなくソースコードや設計を提供しているため、Armの製品そのものが知財だという点。次に、これらの設計を保護して知的財産権、特に特許と商標が、Armにとってビジネスを守るための生命線となる点です。

知財は、Armの設計や製品が複製・模倣されることを阻止するとともに、Armの投資とエコシステムを保護するための防衛メカニズムを提供しています。また、テクノロジー分野におけるArmのブランドとその価値も保護しているのです。

知財を管理する上での課題にはどんなものがありますか。

DB: 多くの業界における知財がそうであるように、数値と費用対効果の分析には多くの作業が必要です。どのような知的財産権を出願し維持すべきか、予算を最適に配分して費用を管理しながら事業の価値と利益を最大化するためにはどうすればよいか、などを判断しなければなりません。

Armでは、事業分野において技術のエコシステムを実現しながら、知財権とのバランスをとる方法についても検討する必要があります。オープンソースソフトウェアを活用することもあれば、技術分野全体に多数存在する標準化団体や組織に協力することもあります。そのためには、そのようなオープンソースプロジェクトや標準化団体に付随する知財方針が、Armの知財ポートフォリオへ与える影響を理解する必要もあります。これはある意味で、知財保護の概念そのものと矛盾する場合もあります。しかし多くの場合、重要なのはこの2つの間の適切なバランスを調整することです。そこで、Armは適切な領域では確実に知財保護を最大化して知財を守りつつ、それ以外の領域ではパートナーコミュニティや顧客の技術仕様の可能性を広げるサポートを積極的に提供しています。

私たち知財部門の業務の大半は、Arm組織全体のビジネスへの関与と、そのビジネスを支援するための適切な特許ポートフォリオを適切な分野で構築することが占めています。また、あまり有益でない分野に技術投資を行わないようにも見極めをしています。言うは易し行は難しで、技術がどのように発展していくのか、そしてどの分野が他の分野よりも重要になり得るのかを予測するのは、簡単な事ではありません。

知財チームはどのようにAQXプラットフォームを使用していますか。

DB: 発明提案に始まり、中間処理、年金納付、特許権の存続期間満了に至るまで、特許のライフサイクル全体に渡りAQXプラットフォームを使用しています。特許の中間処理では、状況情報、ポートフォリオ分類データの把握と追跡、および日々の中間処理活動の管理に役立っています。AQXプラットフォームのデータを使用することで、利害関係者や経営層への報告が容易になりました。また、Armの訴訟活動を追跡および監視するために、特許や商標を含む知財のすべての領域で係争案件管理にAQXプラットフォームを使用しています。

AQXプラットフォームは、私たちが障害物と呼ぶ、知財権利に影響を与える可能性のある他の分野での利用にも役立つ

ています。先ほど述べたように、オープンソースや標準化団体との関与について、ArmはAQXを使いすべての情報を追跡し、すべてを関連付けて、製品保護の全体像を把握することができています。これにより、特定の特許や製品構成に関するあらゆるデータを調べることができ、正しい判断を下すことができます。AQXプラットフォームは、オープンソースにより支障が生じているのか、標準化への参加によりライセンスなどの機会が創出されているのかといった状況認識を支援したり、ポートフォリオを削減すべき分野についての判断を導き出す支援も提供しています。

今後は、費用データ統合機能がより充実することを期待しています。それが実現すれば、個々の特許／製品レベルに至るまで、詳細なモデリングと分析が構築され、製品開発への投資と知財保護とのバランスについての分析や判断がさらに向上できると考えています。

アナクアクライアントワーキンググループでの経験や、AQX製品ロードマップにアイデアを提供した経緯、それらアイデアがどの様に実現しArmに利益をもたらしているかについて教えてください。

DB: 私はAPIワーキンググループに参加し、知財レビューとポートフォリオ管理機能に関するフィードバックを提供してきました。アナクアで多くのAPI開発が行われているという事は、Arm内部でも大きな評価要因となっています。過去には、アナクアプラットフォームは他のツールやシステムから、どちらかといえば孤立していましたが、現在は業界の他のシステムとの連携を強化する動きができています。これがアナクアの戦略的優先事項であるということは、私たちにとっても大きな利益となると考えています。

また、AQXの知財レビューモジュールも活用しています。このモジュールを通してArm用のワークフローを構築し、多くのレビューおよび承認機能を活用しています。この機能群もArmにとって大きな利益をもたらしています。

アナクア・クライアントとしての今までの経験や所感を教えてください。

DB: アナクアのチームと密接に協力し、クライアントとして現在進行中のアナクア製品開発に関する議論や開発ロードマップに意見を提供できることは、素晴らしい経験となっています。

また、アナクアチームとの議論やコラボレーションを通してAQXプラットフォームを活用して作業の効果が高まるような社内プロセスを構築したり、データや特許制度に関する

より優れた洞察が得られるようになりました。以前は、自分たちが何を所有しているのか、何を使用しているのか、どこでリソースや内部能力を有効活用しているのかについて、有効な洞察を持てていませんでした。

現在は、知財における多くの日常的業務もAQXプラットフォーム上で処理しています。

Armはアナクアとともに多くの改善を実現してきました。Armでは、さらなる知財要素の統合をAQXプラットフォームで実行しようと計画しています。

組織全体に対して知財についてどのような意思疎通を行っていますか。

DB: 私たちは、トレーニングやQ&Aセッションだけでなく、さまざまな方法を通じて人々に働きかけることで前進してきました。たとえば、他部署などの社員が知的財産権や特許に関する研修に丸々2時間を費やすことを期待する代わりに、「Ask Me Anything (何でも質問してください)」と銘打ったセッションのシリーズなど、経験豊富な発明者とのさまざまなイベントを企画して、従業員が発明者や技術者などイノベーションの最前線にいる人々の視点を理解できる形の実行したりしています。また、外部登壇者による講演を手配したり、発明者のための集中的な研修を用意したり、Slackチャンネルも作成しました。エンジニアから弁理士に転身した私は、弁護士が知財について数時間話すのを聞くよりも、こうしたイベントや取り組みのほうが多くの人に訴えかけることができると考えています。

今後、知財の役割はどのように変化していくと思いますか。

DB: 私にとって最も重要な変化の1つは、データに関するものです。例えば、AQXプラットフォームを介したArmのポートフォリオに関するものや、競争力を構築するデータなど、私たちはすでにデータからより多くの洞察を得ていますが、これは大きな変化であると感じています。データはいつでも重要な役目を果たしますが、ポートフォリオが成長するにつれて、知財に関する意思決定を行うためにデータからより優れた洞察を得ることは必要不可欠なものとなります。

データを重視する傾向が知財業界内でも高まったため、昨今の

情報にもとづく意思決定は大いに改善されています。分析ツールやそれらが提供する洞察、および最新の機械学習技術を使用することで、私たちは市場の状況をより詳細に理解できるようになりました。この傾向はさらに強まり重視されると私は考えています。

同じことがArmでも見られます。私たちは知財部門として、ArmのDeputy General Counsel and VP of IP (副法務顧問兼知財担当バイスプレジデント) であるRob Calico (ロブ・キャリコ) が委員長を務める知財運営委員会に報告を行っていますが、この委員会は、会社のさまざまな部門からの代表で構成されています。私たちは、知財戦略と毎年設定する施策について、委員会に説明責任を負っています。

知財委員会とより広範なエンジニアリングリーダーシップチームの両者も含め、私たちに起きた最大の変化は、「1年にこれだけの件数の発明の提出が必要だと考えています」という発言からの方向転換でした。現在は、次のように言うことができます。「データX、プロジェクトYに基づいて、今年はZ件を新たに出願することを推奨します。」すると、会話の目的は、数字についての質問ではなく、データと競争上の位置づけを理解することになります。私たちが受ける質問は一夜にして、「どうすれば達成できるのか」から、他のデータ重視の質問に変化しました。

今後、ビジネス上の意思決定をサポートする知財インテリジェンスの必要性はさらに拡大すると考えています。

Armは何千ものパートナーと提携しており、これまでに2,400億個以上のArmベースチップが様々な製品に組み込まれています。これらの製品は、人々をつなぎ、人々のエクスペリエンスを向上させ、世界の可能性を広げています。世界の技術進歩において重要な役割を果たす企業にとって当然のことながら、知財はArmのビジネス戦略全体において非常に重要な要素と捉えられています。そして、知財ポートフォリオを、時間と費用の面からも、効率的かつ確実に管理することが重要とされています。

052023